

2026年3月期 第3四半期決算説明会 Q&A (2026年1月30日開催)

Q1. 国内の受注環境は？

A1. 国内は自動車関連の受注回復に時間を要していますが、航空宇宙関連が堅調なほか、半導体製造装置関連の引合が増加しています。

Q2. アジアの受注が好調な背景は？

A2. EV やプラグインハイブリッド車関連の金型向けの受注が継続したほか、データセンタ・スマートフォン・自動車などに使用されるコネクタ類など、電気・電子部品関連の金型向けの受注が増加しており、通期の受注計画を上方修正しています。

Q3. アメリカの自動車関連の受注動向は？

A3. ハイブリッド車・ICE 車の需要が継続する見通しが強まることおよび人手不足・設備の老朽化などを背景として、省人化・自働化を伴う設備更新・増設需要が緩やかに拡大しています。当社においても、機械単体ではなく自働化・ターンキーといったエンジニアリングサービスを含む受注が増加しています。

Q4. ヨーロッパの受注が急増したが、市場環境に変化があったのか？

A4. 航空宇宙関連で大型機の受注を複数獲得したことにより第3四半期の受注は大きく増加しました。ヨーロッパ全体は自動車関連を中心として厳しい状況が続いているが、航空宇宙関連については引き続き堅調に推移すると見ています。

Q5. 工作機械市場では周辺工程を含めた自働化の要求が高まっているが、自働化対応の進捗は？

A5. 当社は機械本体のほか、自働化に必要となる搬送装置などの周辺機器およびソフトウェア、エンジニアリングサービスをワンストップで提供しています。近年はソフトウェアの拡充により大量生産だけでなく多品種少量生産などにおいても自働化ソリューションの提案を強化しています。国内では自働化・ターンキーを専門とするグループ会社を通じてお客様の課題に応じた具体的な提案を行っているほか、海外でも各地域においてアプリケーションエンジニアを強化し省人化・

自働化ニーズに対応しています。

本資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的リスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。